

アクリルたわしの普及・被災地支援事業として、みんなで地道に&ハートフルに活動しています。

ちーむ☆ れいんぼう

サカナの形のめんけぇ（ニカわいい）アクリルたわし

大抵の汚れは水＆アクリルたわしで落ちるので洗剤いらず。

界面活性剤入りの合成洗剤を使わずに済むので、

川の水を汚さず、赤ちゃんにもやさしいエコたわし☆

（しつこい油汚れは古布で拭き取ったり、

牛乳パックの切れ端をヘラ代わりに使ってざつと落としてから、

石けんを少したわしにつけて洗うだけでピカピカに）

台所もお風呂も洗面所の汚れも、

このアクリルたわしでお掃除できちゃいます♪

きれいな海と川を夢見て、

たわしザカナはあなたのおうちで大活躍することまちがいない！



*作る

環境学習交流センターでの
「アクリルたわし講座」ほか、
被災地や県内イベント、
出張講座などでみんなで一緒に
『作る』活動を行っています。



*広める

水や洗剤にまつわるお話や
アクリルたわしの使用方法・
効果などを伝えることで
水の保全活動につなげています。



*買ってもらう

出張環境学習会などで
販売を行っています。
アクリルたわしの売り上げは
被災地支援として
沿岸各地へお渡しします。

私たちと一緒にたわしを編みませんか？

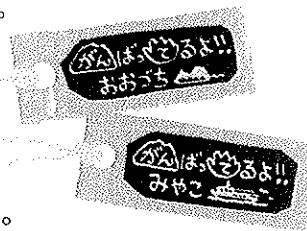
ちーむ☆れいんぼうでは、一緒にたわしを編んでくれる方を随時募集しています。

最初は自分用に、うまくいって沢山編めたら支援用に…と自由に取り組んでいただければと思います。

初心者でももちろん大丈夫です。センター職員や講師が手取り足取り楽しくサポートします。

また、被災地の方や県内の団体の方で「たわしを編んでみたい」という方も募集中です。

出前講座などもしておりますので、お気軽にお問合せください。



ちーむ☆れいんぼうの活動の詳細については、下記までお問合せください。

Tel: 020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7-1アイーナ5F 環境学習交流センター

TEL: 019-606-1752 FAX: 019-606-1753 E-mail: eco@aiana.jp

担当: 田近 (10:00 ~ 18:00)

被災地支援の活動の報告

3・11に発生した東日本大震災後、環境学習交流センター業務の沿岸への出張や活動は今年度はほぼ見込めない状況でしたが、被災地への支援活動としてむしろ積極的に展開を図りました。

流域支援活動として、三陸エコビジョンフォーラムの実行委員会に参加し、県内外の環境NPO・災害支援NGOとともに検討を重ねてきました。また、出張環境学習講座として、避難所等へアクリルたわし講



座や、避難所と校舎を分けてながら再開した小学校で、岩手大学の高木先生の声がけで実現した、自転車発電機での体験学習などを行ってきました。

9月4日に遠野あえりあにおいて、三陸エコビジョンプレフォーラムとして、三陸ゆかりの研究者や気仙沼市唐桑町の畠山重篤さんらの講演や提言、パネルディスカッションを行いました。

この中で、パネリストの臼澤良一さんから、大槌の津波後の状況、ガレキが撤去されて現れたのは、子どもの頃遊んだ風景であり、砂浜、防潮林、波打ち際、磯があり、かつてそこは巨大なビオトープであり、生き物の宝庫だった。

まちづくりはリセットの時代で、自然をないがしろにしてきた人間の奢りが災害を悲惨なものにしてしまっている。まちづくり、開発をする人も気づかなければならぬ、というお話が象徴的であり、深く印象に残りました。

11月23日には、再生可能エネルギーのテーマで映画会と飯田哲也さんの講演及び12月9日～11日の3日間にわたるフォーラムを行います。

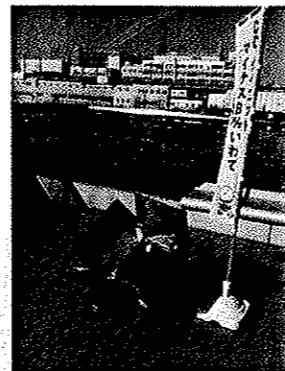
この震災以降、全国のNPO・NGOとの連携も数多く実現してきました。

災害時における分散型エネルギーとして震災直後、燃料不足で車の通行はほとんど途絶えた中、BDF施設はフル稼働し、支援物資を積んだトラックが沿岸と内陸を往復しました。今後、いわてバイオディーゼル燃料ネットワークと連携して、さらに活動を拡大し、BDFの利用も拡大していきます。

大槌町の吉里吉里小学校では、遠野農林振興セン

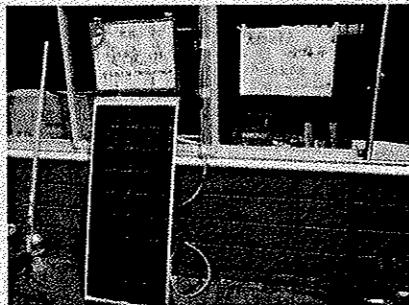
ターやNPOが連携し、被災地でのガレキから薪をつくり燃料にした薪ボイラーで、お風呂や洗面、調理のために給湯を行いました。その後、地元にNPOが生まれ「復活の薪」として全国に販売を始めまた、ガレキだけでなく、間伐材からの薪の生産を始めています。

太陽熱に関して、ソーラークリッキング友の会横浜ジャパン様よりソーラークリッカー2台をご提供いただき、被災された地球温暖化防止活動推進員さんに使っていただきました。



また、太陽光発電を普及する全国規模のNPO法人太陽光発電所ネットワーク(PV-Net)様より、ベランダ太陽光発電キットをご提供いただき、直接、盛岡までおいでいただき調整していただきました。その後、県内の被災された推進員さんにお届けして、学校等で教材として活用いただいております。PV-Net様は、岩手県内では、宮古市において、太陽光発

電を取り付けられた家庭での被害状況や停電時の自立運転の状況の調査を行っています。



3月27日遠野市社会福祉協議会において、地元のNPOと神戸や静岡の団体が集結し、遠野被災地支援ボランティアネットワークとして遠野まごころネットが発足しました。

今後も長い復興過程において、遠野まごころネットはじめ多くの機関、団体、個人と連携して、地球1個分の暮らしを目指して、環境パートナーシップいわてとして、活動を進めて行きたいと思います。



報告（佐々木）

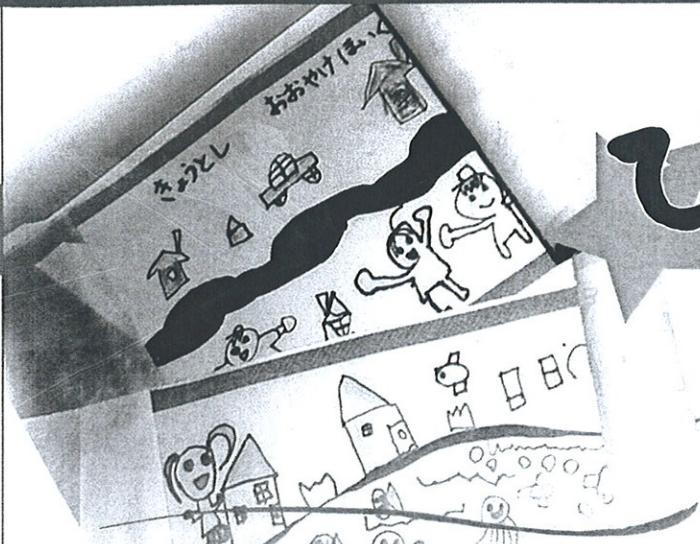
自主事業①



NPO法人自然環境復元協会(東京)がJAXAから譲り受けた「宇宙を旅したアサガオ種子」の二代目、2500粒を岩手県立大学平塚教室が受けて苗を育成し、被災地仮設住宅の夏のクールグラン効果と潤いを期待し「実行委員会」を設立して取り組んで来ました。その概要を報告します。2008年3月エンデバーで土井隆雄飛行士が教育プログラム用として国際宇宙ステーション(ISS)に運び、12月まで9ヶ月間ISSきぼうのモジュール内に保管して回収されたアサガオ(品種ムラサキ)の種子の二代目。

県立大学には6月7日・11日に到着、紙のエコポットを作成して播種、苗の成長状況から7月2日を現地施工の目標の下に準備に入りました。平塚教授の人脈から、釜石・大槌の二地区に設置を決めて現地での打ち合わせ、最少投資で最大の設置を行うべく施工方法の検討を行い、少なくとも100戸の住宅の方々への提供を決めました。設置時期を失すると効果が失われるため資金目途を後回しにして必要資材の入手を進めると共に、岩手県立大学・小岩井農牧(株)・遠野まごころネットなど同調者をもって「実行委員会」を立ち上げました。NPO ASIA Environmental Alliance 及びNPO日本ビオ

トープ協会東北地区委員会から速く協力と資金提供の申し出があり、NPO環境パートナーシップいわてへのプロジェクト提案を行い、事業として承認を頂き積極的に取り組む事となりました。釜石地区では、県の環境カウンセラーである加藤直子さんのご尽力で「釜石市・昭和園グランド仮設住宅・118戸」を対象に加藤さんのグループ(釜石レディーズ)と共に、地域住民、ボランティアセンターから派遣された横浜・東京などのボランティア。大槌地区では被災された県の環境審議会委員である臼澤良一氏の計らいで「大槌町・杁内地区大槌仮設住宅・45戸+a」に、NPO遠野まごころネットから派遣された静岡などのボランティアと共に緑のカーテンを設置しています。今後のメンテナンスや日常管理は住民や地域のサポーターが対応する事しておりますが、涼しくなる前に種子の収穫やネットの取り外しなどの作業があり、次年度の緑のカーテンまで、球根類の花の提供も視野に入れています。「もりおかエコライフ展」にも出展して、被災地のみならず広く一般に普及する事で省エネ・潤いと共に県民の環境意識の向上に繋がる事を願っています。ご協力頂きました皆様に心から感謝申し上げます。（野澤記）



京都議定書発効を機に
「一人でも多くの人に一つでも多くのエコ」
を合言葉にみんなで実践し、
広げるエコをコンセプトに展開。

一本の線を引いた巻物を準備し京都の子どもたちが絵やメッセージを描き被災地の子どもたちへとつなぎました。京都から東京までは自転車で運びました。同じく岩手の子どもたちからも発信し京都の子どもたちにつなげました。8月にはびっくりエコ100選会場（高島屋）に展示しました。

7月18日には、ペンネームハイムーンで知られている高月先生（京（みやこ）エコロジーセンター館長）がセンターを表敬訪問され、8月25日には、京都大学の浅利先生を含む5名の実行委員の皆さんに来盛し、センターと県庁を訪問され、その足で、絵巻で協力していただいた岩泉町の泉山さん・大槌町の臼澤さんと合流し、びっくりエコの現状と遠足プロジェクトの打ち合わせ交流会を行いました。

10月にチャリティオークションで集まつたお金は遠足費用として被災地の子どもたちにプレゼントされる予定（京都へのお誘いもありますが？）です。

びっくり エコ100選

…京都発!! 京都と岩手をつなぐ!!



↑ 泉山さんと合流



↑ 臼澤さんを囲んで



↑ 大槌町の子どもさん



↑ 高月先生センター訪問



↑ 岩泉町の子どもさん



↑ 新品の自転車を寄贈 乗り具合は？